

ゲキ×シネ「五右衛門ロック」

★★★★

2009（平成21）年3月23日鑑賞＜試写会・梅田ブルク7＞

監督：渡部武彦

企画、製作：劇団☆新感線、ヴィレッチ

作：中島かずき

演出：いのうえひでのり

石川五右衛門（稀代の太刀持ち）／古田新太

真砂のお竜／松雪泰子

カルマ王子（バラバ国の王子）／森山未来

岩倉左門字（五右衛門を追い掛ける役人）／江口洋介

ペドロ・モッカ（南蛮の商人）／川平慈英

シュザク夫人（ポノー将軍の妻）／濱田マリ

ポノー将軍（タタラ国王の首を狙うバラバ国の大將軍）／橋本じゅん

インガ（タタラ国の穴掘り隊長）／高田聖子

ガモー（タタラ国の将軍）／栗根まこと

クガイ（タタラ国の国王）／北大路欣也

2009年・日本映画（ゲキ×シネ）・189分

配給／ヴィレッチ、ティ・ジョイ

＜基本ストーリーは維持しつつ、今回の趣向は？＞

天下の大泥棒石川五右衛門は元伊賀の忍者。織田信長によって故郷伊賀の里を襲われ村民が皆殺しにされた五右衛門は信長への復讐を誓ったが、信長は死亡。そこで五右衛門は信長の後継者たる豊臣秀吉にターゲットを切り替え、その暗殺を狙って大坂城内に忍び込んだ。こんな基本ストーリーのゲキ×シネ『五右衛門ロック』は、山本薩夫監督の『忍びの者』（62年）や篠田正浩監督の『梟の城』（99年）と同じ。したがって189分の物語は、大坂城内の秀吉の寝所に忍び込んだ五右衛門（古田新太）がちょっとした悪ふざけ（？）をするシーンから始まる。

他方、意外と簡単にお縄になってしまった五右衛門が釜茹での刑で死亡する（？）のも、多くの日本人が知っている基本ストーリー。もう1つ、『五右衛門ロック』が基本ストーリーを守っているのは、休憩後の後半にはじめて登場する高田聖子演ずる穴掘り隊長のインガの素性。彼女は今はタタラ国の国王クガイ（北大路欣也）の崇拜者で忠実な部下だが、実は五右衛門とは昔なじみの伊賀の忍者という設定だ。

もっとも、大泥棒の石川五右衛門が元伊賀忍者という基本ストーリーを維持しているのはこれだけで、本作のメイン舞台は大坂や伊賀ではなく、南の果ての島タタラ国。謎の国王クガイが支配している国だ。クガイと対立するのが、クガイを憎む息子のカルマ王子（森山未来）、そしてカルマ王子をうまく利用しているバラバ国のポノー将軍（橋本じゅん）とそのシュザク夫人（濱田マリ）たち。ワケのわからない架空の国や架空の人物をたくさん登場させるのはゲキ×シネの常套手段だが、さて今回の趣向は？

＜意外なキャスティングと、その演技に注目！＞

今回のゲキ×シネの意外なキャスティングの第1は、北大路欣也の登場。彼が善玉か悪玉かはここでは書けないが、タタラ国の独裁者であるクガイの人物像は意外に奥が深いので要注目！第2の意外なキャスティングは、五右衛門を捕まえることを生き甲斐としている、かなり複雑なキャラ岩倉左門字を演ずる江口洋介。どんな役でも演じることができる芸達者ぶりを生かしたユーモラスな演技は結構面白い。第3は2世のボンボンらしくちょっと頭は単純だが、情熱的で前向き思考のカルマ王子を演ずる森山未来。若者らしい華麗なダンスと歌唱力に注目！そして最後に、『フラガール』（02年）で大きくステップアップした松雪泰子が真砂のお竜役として多くのシーンで存在感を示すが、その歌唱力はイマイチ？またクガイの要請によって踊るシーンが登場するが、やっぱり踊りは『フラガール』の方が上？

＜南蛮商人の狙いは？カルマ王子のスタンスは？＞

徹底した合理主義者であった織田信長は南蛮商人をうまく使ったようだが、信長亡き後南蛮商人が果たした役割とは？そう大上段から振りかぶらなくてもいいが、アメリカ発の金融危機によって大きな影響を受けている現在の日本国の体たらくを考えると、金儲けのためには手段を選ばない南蛮商人ペドロ（川平慈英）の巧妙な立ち回りにも容易に騙されそう？軽妙に歌い踊りながら言葉巧みにすり寄ってくる南蛮商人ペドロの正体をしっかりと見極めたい。

そんな国際舞台で鍛え抜かれた南蛮商人ペドロと対照的なのが、クガイの息子でありながら「打倒クガイ！」のために奮闘するカルマ王子の単純さ。カルマ王子が父親を憎んでいるのは母親が父の手によって殺されたためだが、そこにはいろいろと複雑な事情があるのでは？それをちゃんと話し合わないでやみくもに「打倒クガイ！」の行動に走っていると、そりゃちょっとヤバいのでは？

＜ストーリーの焦点は、月生石（げっしょうせき）＞

釜茹での刑で死亡したはずの五右衛門を助け出し、南の国に向けた船に五右衛門を乗せたのは真砂のお竜。そこではじめて語られるのが、タタラ国に大量に眠っているという月生石のお話。つまり、真砂のお竜はそれを盗むために五右衛門に腕をふるってほしいというわけだ。

当初五右衛門は全然興味を示さなかったが、そこに南蛮商人ペドロが加わり、月生石の何たるかがおぼろげながら示されると、意外にも五右衛門はそれに同意。ここに月生石を求める旅が始まるのだが、その船を追跡してきた左門字との間に一悶着が。ところがそこを襲ってきたのが暴風雨。そうなると船の中での捕りもの帳どころではなくなったのは当然。暴風雨によって船は難破し、五右衛門が流れ着いたのはある砂浜だったが、さてここはどこ？真砂のお竜は？ペドロは？そして左門字は？さあ、ここから舞台をタタラ国に移し、謎の月生石をテーマとしたハチャメチャな物語が大展開！

＜穴掘りの現場は？あっと驚くクライマックスは？＞

金をめぐって、日本では佐渡の金山、石見の銀山などが有名。また、石炭をめぐっては福岡県の筑豊炭鉱や北海道の夕張炭鉱などが有名だ。金や銀、石炭を掘り出す作業の基本は、人間がつるはしをもって鉱道を掘り進みブツを採取していくこと。したがって鉱道は次第に長く、複雑になっていくのは仕方ないが、そこで大切なのは工事現場の安全、つまり落盤事故の防止対策だ。しかるところ、インガが穴掘り隊長をつとめているタタラ国の穴掘り現場の鉱道は？その安全対策は？

他方、何度もお縄となりながら現場感を大切に（？）五右衛門の見立てによれば、月生石とは岩塩の一種らしい。そんなものに、なぜクガイや南蛮商人が固執しているの？遠洋航海のために塩は不可欠だが、ただそれだけの理由？いやいや、ストーリーの展開模様からみると、どうもそれだけではなさそうだ。ゲキ×シネ『五右衛門ロック』を楽しむためにはそんな興味の目を持って、「月生石とは？」を常に意識しておかなくちゃ。例によって『五右衛門ロック』にはあっと驚くド派手なクライマックスが待っているから、そこに至るストーリーの「必然性」を納得するためにも、「月生石とは？」の視点が大切だ。

2009（平成21）年3月30日記